



表紙の写真
「神田の大糸桜」

北巨摩小淵沢町にあるエドヒゴンザクラの古木である。1959年(昭和34)に県指定天然記念物となっている。中央線小淵沢駅と長坂駅のほぼ中間に位置し、車窓からも良く見ることができ残雪の八ヶ岳を背景に、傘のように広く垂れ下がる形は見事である。高さ10メートル。枝の張りは20メートルほどあり、樹齢も400年近く。

県内に数多くある桜の巨木のなかでも、その姿の美しさを写真に納めるため、季節ともなると訪れる観光客が多い。寒冷地のため満開は遅く、例年だと4月20日頃。街中の桜が散った後、甲府地方の桜見物と洒落てみてはいかが、他にも桜の見所はいっぱいだ。

(写真と文:浅川一義)

『MUH』vol.8 1996.4.1
企画／早野グループ『MUH』編集室
深沢進・矢田道生・桜林友英・久保田充一
編集／株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・三井君男・五味剛・清水広子・石原由里子・高山ひとみ・赤井美佐穂

日本工業経済新聞社

印刷／有限会社オスプリント

誌名の「MUH」は、早野組の社説である「和」を託した
Mate(仲間)、Union(結ぶ)、Harmony(調和)の頭文字
からとりました。幻のムード大陸のロマンを目指します。

フォーラム	
テーマ 薬 江宮隆之・吉屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美	2
特集	
山梨21 小松 明美 氏(アナウンサー)	4
ホスト 早野 潔	
高校野球の実況 35年 热球のドラマを間近に	
極められたドラマ 1点に泣いて奮起	
データ 高校野球を数倍楽しく観るために記録あれこれ	
トピックス	
豊臣秀吉という男	10
企業ウォッチング	
山梨日野自動車株式会社 飯室 光男 氏	13
サークル訪問	
「昇仙峡・御嶽そば保存会」	14
インフォメーション	
早野組・トヨタビースタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運	16
ようこそ歴史	
広瀬 保庵 上野晴朗	18
アートへのまなざし	
ボクの美術品観察日記1 山本育夫	20
トレンド	
インターネット	22
BOOK	
こんなところに山梨… BOOKコーナー 廣と胸	23
リレーエッセイ	
青春の街 佐野秀延	24
甲府通運前史を訪ねる(2)	25
ユーザー紹介	
株式会社 小林事務機	26
街案内	
柏手 久隆さん(勝沼町)	27
ワンポイント情報	
トヨタビースタ山梨・トヨタホーム山梨	28
ときのひと・FACE	
「オール・ザ・パワー'95ハイレベル提案コンテスト～これからのトヨタホームに関する論文～」で入賞・風呂川和江さん	29
おしゃれ	
セイビドー本店 / たべ園 活・粹 すし長	30
甲州の野辺にて④	
先人之心に還る(2)笛形町沢登地区的初子 志摩 阿木夫	31
コラム	
某月某日	32



外郎売(ういろううり)

江宮隆之

(季節が古くて恐縮だが) 正月は何といつても歌舞伎である。ということで、今年の正月は二度、花のお江戸に芝居見物と洒落こんだ。半蔵門は国立劇場での市川團十郎・歌舞伎十八番『雷神不動北山桜(なるかみふどうきたやまとくら)』は、珍しい通し狂言。團十郎が、毛抜き彈正、鳴神土人、不動明王に扮して楽しめてくれた。歌舞伎はこうでなくちゃあ、という出し物だ。

さて、その二回目は雷門は浅草公会堂での若手による初春歌舞伎。團十郎の長男・新之助やら、二代目辰之助、菊五郎の長男・丑之助、孝夫の長男・秀太郎など、とにかく活きのいい二代目、三代目がうようよ出てきての熱演。予想以上に面白くて感動したのだが、その中の一つに、歌舞伎十八番『外郎売』があった。

さてこの『外郎売』だが、父の仇・工藤佑経を狙う曾我五郎が、小田原名物の薬・外郎(ういろう)を売りながら工藤に近付くという物語。富士を背景に、ずらりと投者が並び、壯觀そのもの。そこでの早口言葉を混ぜた長せりふの「言い立て」に、江戸の見物も大喜びしたという。江戸の風俗を芝居に取り入れたものであるが、この「外郎」、頭痛、歯痛、めまいに効いた。確かに江戸時代、薬があったかといえば、当然現在と同じように医者によらないで使える売薬があった。薬屋があり、行商がいて、しかもお闇染みの富山の薬売りもあって、どこの家にも常備されていた。

「消毒しあ、いらんかねえ」は、いかに腹痛が多かったかの証拠だが、天秤棒に薬箱を入れて売り歩いた売り声である。

反魂丹(はんごんたん)は「食前食後に」というやつ、つまり健胃剤。もうひとつ、お百草は健胃整腸剤。実母散は、今もなお中年以上のご婦人が飲んでいる婦人病の薬。万金丹は解毒、鎮静剤。地黄丸(じおうがん)は、お父さん愛用の強精剤だし、紫雲膏(しうんこう)はやけど、腫瘍の薬だった。奇應丸(きおうがん)は腹痛、かんの虫に効き、延齡丹(えんれいitan)は、気付け薬として使われた。

と、まあ薬の名前と効用を記してみると、江戸時代の人間も以外に胃の薬をよく使っていたことが、よく分かる。つまりは胃が痛くなるようなことが多かったということらしく…。ストレス性胃炎というやつでしょうか。

■1948年福島町生まれ 「経済記」で第13回歴史文学賞 著書に「凍てて頬

薬って何?

古屋久昭

このところ風邪さえもひかないから、薬とは縁のない日々が続いている。せいぜい、年に一度人間ドックで病院に行くくらいである。その病院では、まるで、神さま、仏さま、薬さまともいいたげに両手に抱えられないほどの薬をお持ちの老人に出くわす。ぞっとする光景である。

私の家には少しばかりの畳がある。親父の身体が思うように動けなくなつて、私が休みの日などに時々畳に出ることとなる。そこで、私は薬とのつき合いをいやむなくさせられる。薬は薬でも殺虫剤などの農薬である。この農薬というものは、劇薬であつたり、それよりさらに恐い毒薬であつたりする。そうした可能性を秘めているものであるということが分つてくる。

人々は麻原教組率いるオウム真理教集団の一連のサリン事件の恐怖にさらされたが、畳にいる虫たちにとっては、人間が使用する農薬こそがサリンであり、人間こそがオウムと同じように敵、恐ろしい存在ということになる。

ところで、農薬から発して薬というものを考えてみると、薬というものがいかに両刃の剣であるかに気づかされる。毒にも薬にもなり得る両性物質なのだ。副作用ということばをも想い出す。従つて、製薬会社、医療機関、医師、看護婦、薬局、薬剤師、さらには厚生省等々という一連の薬剤関係者の良心を気にしないわけにはいかない。

最近の薬害エイズ、非加熱血液製剤の犯罪的事件のことを考えると薬問題の疑問はぬぐい去れない。

街には薬スーパーがあちこちに見られるようになった。厚生省が許可している薬品種は日本が世界一とか聞いている。大量生産大量消費はごみばかりの話ではない。薬があくなき資本主義的利益追求の道具、手段にされていたらまらない。

とまあこんなふうにわめいている私は、強度の心配過剰症なんか。こんな私にはどんな薬を投与すればよいのか。数年後には薬をも摂む気持で薬にすがりついている哀れな私になっているかも知れない。生きている以上、一寸先は闇である。闇を溶かす薬なんてないのだから闇に対する覚悟というものを持たねばならない。

■1943年福島町生まれ 日本国歌文学賞評議員

毒薬の魅力

岩崎正吾

のっけに驚かせて恐縮だが、わたしは人を殺すことばかり考えている。どうすれば捜査トウキヨクにばれない殺人が可能か。どうせ結末では事件のすべてが解明されるのだが、序盤、中盤くらいまでは読者を騙せる説が欲しい。ミステリー小説における殺人事件は、俳句における季語の如きものなのである。

現代の読者は高尚だから、小説といえども現実性がないといけない。ピストルを使う殺人事件は簡単で、昨今、巷にその種の犯罪が多いからといって、安易に書くとしっぺ返しを食う。拳銃の入手方法、どのように射撃の練習をしたかなど、きちんと書かないといつて読者は納得しない。わたしは暗黒街を知らないし機械物に弱いから、拳銃を小説に使用するのは諂ひでいる。

現実の事件で多いのは、首を絞めること、短刀などで刺すことなどだろう。しかし、犯人は誰かを興味の中心にするミステリーで、この方法はまずい。体力が要求されるから、犯人がバレやすいのだ。八十の老婆が二十の若者を絞め殺すなどということは、現実にはあり得ないだろう。

老若男女、誰でも人を殺せる可能性を持ち、かつ現実に使いやすいのは毒薬である。これだと、体力のない老人や子供でも、血を見るのは嫌いな女性でも実行しやすい。必要なのは、それが毒薬であるという知識だけである。

かくして、わがミステリーには毒薬が多用される。以前に、無色無臭の毒薬として、有機リン系の殺虫農薬を使ったことがある。これは現在では製造禁止だというクレームがついたが、わたしは承知していて時代をばかして使用した。灌漑を下げるのは、トリカブトの毒を使った時である。ある批評家がトリカブトで人を殺すのは難しいのではないかと難癖をつけてきた。実験するわけにいかないし、さて、困ったなと思っていたら、現実にトリカブト殺人事件というのが起こった。ざまあみろ、という気分であった。

ところで皆さん、何かうまい人殺しの方法はありませんかね。

■1944年生まれ ミステリー作家 地方出版社「山梨ふるさと文庫」代著 長編小説に「闇かがやく島へ」(角川文庫)「農業本邦寺・信長殺すべし」(講談社)など最近初のエッセイ集「地方出版・地方作家・事始め」(山梨ふるさと文庫)を刊行

服むか食うか

佐藤真佐美

その学校にはキリスト教の牧師を養成するコースと、幼稚園教諭の養成コースおよび、東南アジアの留学生に農業を教えるコースがあった。留学生といっても現地では校長先生とか、政府の農業機関の要職にあるなど、ほくらよりはるかに社会的地位の高い人たちである。ほくらはそこの司書教諭であった。

1972年の春、卒業生で高等学校校長のY氏の招きで、女子学生4名を連れて韓国へ行く機会に恵まれた。まだ日本人旅行客の少ない時である。下関まで電車で行き、そこからフェリーで釜山に上陸すると、ソウルからY氏が迎えに来てくれていた。

かつての新羅の古都慶州などを案内されて、その晩はどこかの旅館に泊まった。狭い部屋に女子学生4人とぼく、それにY氏の6人が密着してごろ寝。翌日は百濟の古墳を訪ねその夜も一室に雜魚寝。三日目にソウル着。Y氏の親しくしているA牧師宅を訪ねて、ここでも女子学生とぼくは一部屋に密着して寝た。Y氏は帰宅した。と、こういうことを書くと世の中年おじさんたちはおそらく、よだれをたらしてあらぬ想像をめぐらすにちがいない。がほくらはキヨーイクシャなので、何事もなく三夜が明けた。

翌日A牧師は、日本語のわかるミセス白(パク)という女性の経営する旅館を紹介してくれて、その晩初めてぼくは一人で寝た。ついでにいえば、韓国では男なら乞食でも先生、女にはミス、ミセスをつけて呼ぶ。そしてその夜、雜魚寝の効用をしみじみ知った。朝小便をしに行って帰つてると、ぼくの上着の内ポケットから全財産、現金五万ウォンとパスポートが消えていたのだ。

その日大使館に盗難届けと再発行願いをして旅館に帰ると、ぼくは40度の熱が出た。ミセス白は「これを食べなさい」と日本語でいって、解熱剤をくれた。新発見である。この国では薬を「食べる」というのだ。さらにこの国では、風邪には指圧が効くのだという。ミセス白の紹介で女性の按摩が来た。薄着で半日揉んでもらって、ぼくはかえって熱があがった。現金は戻らなかつたが、パスポートは翌日、近くのボストから出てきた。

■1939年北海道生まれ 日本児童文学者協会・日本児童学協会会員 著書に「怪奇! 大東京妖怪ゾーン」(ボブロ社)「文ちゃんのはるかな知床」(北海道新聞社)近著に「シレットフのシルバー」(草薙社)など

球児たちのドラマが開幕
青春の情熱は地域の宝
高校野球をもっと楽しむために

ゲスト

こまつ あきよし
小松 明美氏
アナウンサー

ホスト
はやの きよし
早野 潔
早野組社長

高校野球の実況 35年 熱球のドラマを間近に

早野 本格的な春を迎え、高校のグラウンドからはバッティングをするさわやかな快音が響いてきますが、小松さんが高校野球の実況を手がけられたのはいつ頃のことですか。

小松 山梨放送に入社しましたのは昭和36年のことです。当時、野球

の実況放送に手腕をふるった先輩アナウンサーが二人いました、こんなこと自分にはとても出来まいと思うほど上手でした。

早野 今から35年前ということになりますね。当時はラジオ放送ですね。

小松 はい。一生懸命勉強して、初めて中継を担当したのが昭和38年の夏の大会です。機山工業と甲府一

高の試合で、7対3で機山が勝ちました。一番最初の試合というのは、思い出深く、いまも忘れることができません。事前にあらゆる資料を用意して臨みました。

早野 成果のほどはいかがでしたか。緊張されましたか。9回裏まで力投されたわけですね。

小松 その資料に足を取られた、という表現がふさわしいでしょうか。まず、テーマ音楽が流れます。ディレクターがキーを出します。その時、容易万端とばかりに、準備していた原稿に目を落としていたんです。そうしましたら、いきなりグラウンドではランナーがぐるぐる星を回っているではありませんか。

早野 ドラマは早くも一回の表から白熱したわけですね。

小松 何がどうなっているのか混乱して、ア、ア、アと、言葉にもならない呼びを連発しているばかりでした。後で先輩たちからひどく叱られたことを覚えています。

早野 その頃の、山梨県大会の出場チーム数はどのくらいでしたか。

小松 当時は26校です。現在では42校と増えています。



早野 潔

ゲスト

こまつ あきよし
小松 明美氏
アナウンサー

■小松 明美

アナウンサー 昭和36年山梨放送へ入社以来アナウンサーとして勤務。ことに高校野球実況放送の第一人者として活躍し評価が高い。著書に『熱球のドラマを追って』『味見たちのドラマ』山梨県高校サッカー熱戦譜『ゴールを狙え!』(山梨日日新聞社)などがある

早野 それは感慨深いですね。甲府の縁が丘球場の時代ですね。

小松 はい。甲子園に出場することが夢であり、決勝でもあった時代でした。甲府一高、甲府工業、甲府商業がいつも三つとも優勝を争い、切磋琢磨していましたね。現在、甲子園には一県一校の代表が出場して大会が開催されますが、その昔は甲神静大会がありましたし、山静のブロック大会、さらには西関東大会、北関東大会と、甲子園に至る道のりはことのほか多難でした。なかなか勝てませんでした。

秘められたドラマ 1点に泣いて奮起

早野 山梨から初めて甲子園に出場したのはいつのことですか。

小松 昭和10年。甲府中学が出場しました。

早野 選手たちの感激のほど、郷土を挙げての期待のほどが想像できますね。

小松 高校野球には、青春の夢といいますか、いつも変わることのない魅力がありますね。

小松 今や、山梨の高校野球のレ

ベルも高くなりました。

早野 そこには単に技術というもののを超えた人間愛や、理想、信念というものがあるのだと想像することができます。

ここまで来るのには、困難な長い歴史があったのでしょうか。そこに高校野球のもうひとつのドラマがあるように思います。

小松 山梨は、なかなか勝てませんでした。そのなかで甲府工業は西関東大会において3回決勝まで進んだことがあります。多くの県民の期

待を集めましたが、しかし、何としても優勝できませんでした。

1点差で泣いた決勝戦の後、甲府工業の田名網英二監督が、日本高野連の偉い方に手紙を出したということです。どうしたら勝てるのか、とう訴えです。

早野 心中察するところがありますね。

小松 そうしましたら返事がきて、それには、「田名網君、山梨の野球を強くするのは君しかいない。其途盡(そのみちにつくす)」とあったそうで



小松 明美氏

す。それで監督はまた発奮したといいます。

4回目の挑戦は、昭和37年で、準決勝の対戦相手は大宮工業でした。これは忘ることのできない試合で、3対3で延長16回を迎える。先攻の甲府工業が1点を入れて4対3としましたが、その裏、大宮工業が大反撃にてて、ワンアウト、フルベースと、絶体絶命の緊迫した瞬間を迎えます。

バッターは1番。ライトに大きなフライを打ちました。ライトがこれを捕って、バックホームです。もうアウトかセーフか。砂ぼこりがたつて、審判がアウトの宣告をしました。

この試合は正午からはじまり、終わるのは5時20分。このため第2試合は翌日に延期され、決勝戦も1日延び、上尾高校と対戦しました。

早野 ここで優勝し、念願の甲子園初出場を果たしたわけですね。

時代を創った監督 二つの野球哲学

早野 田名網監督は若くして、惜しまれて亡くなりましたが、山梨の高校野球の生みの親、育ての親と、讃



えていいでしょうね。

小松 山梨で優勝したチームがそのまま甲子園に出場できるという、いわゆる1県1校代表制となったのは昭和53年のことです。この頃から、山梨の高校野球が大きく変貌していくことになります。

早野 私学の台頭ですね。

小松 はい。昭和56年に東海大甲府が巨摩高校を破り、春、夏、秋をとおして、公式戦で初めて私学が優勝したのです。そして甲子園出場を果たしました。その後、東海大甲府

の黄金時代が続きました。東海大甲府は、それまでの山梨の野球とは個性を異にするものでした。

昭和57年の甲府商業との決勝戦がよみがえってきます。この試合では、9回の表まで甲府商業が2対0でリードしていました。誰しもが甲府商業の優勝を疑っていませんでした。甲府商業の関係者はもう壮行会の準備をはじめました。ところが、9回の裏で東海大甲府は3点を取り、逆転しました。

早野 田名網監督とともに、もう



一人、山梨の高校野球の指導者として忘れてはならない大八木治監督の登場があるわけですね。

大切なのは和の精神 厳しさとやさしさと

早野 田名網監督と大八木監督、お二人の野球は、それぞれどんなものだったのでしょうか。

小松 対照的なものがありますね。誤解を招く形容かもしれませんのが、田名網監督はとにかく選手を叩いて鍛えましたね。バットが折れるくらい

い叩いたこともあります。

早野 今は死語に近いものとなってしまいましたが、愛のムチですね。

小松 当時は父兄も、誰も何も言いませんでした。むしろ、鍛えてもらいたいと願っていました。

大八木監督の頃は、学校の教育そのものが違っていました。しかし、大八木監督は叩かないかわりに、捕れるまでノックをしていましたし、打てるまで打たせました。その反面、細やかな方で、ピッチャーには爪の切り方まで指導していましたね。

それから戦術的には、田名網監督は一点一点を大事にし、積み上げていく野球でした。一方、大八木監督は豪快に打って得点していく野球でした。どちらもどちらとも、カタチをもっていましたね。

早野 人を育てるというのは大変なことです。高校野球は教育の一環ですから、その伝統は、長く受け継いでいってもらいたいですね。そこにもまた、最近の教育が、また、スポーツが忘れてしまったものの再発見があるとも思います。

小松 両監督が共に大切にしていたことは、子供たちの一人一人の素質を引き出し、意欲をもたせること、そして育てること。さらには、和の精神です。お二人にはそうした哲学がありました。これは、早野グループの皆さん方が大切にしている企業理念と共通しています。

早野 甲府工業の原初也監督は、その田名網監督に育てられ、甲子園にも行き、そして母校の監督になられた方ですね。その二人のお子さんも甲府工業で野球をやり、一緒に甲子園に行って話題になりましたね。

小松 これは全国的にみても非常

に珍しいことです。原監督は、まさに田名網野球の教育を身をもって受け、信じ、伝統を今日に引き継いでいます。家には何人も選手を下宿させていました。

野球に専念する毎日ですから、奥さんは大変です。朝は5時頃から夜は10時頃まで良く働いています。しかし原監督の奥さんは愚痴など少しもこぼさず、むしろ明るい方です。

早野 大勢の方が、陰になり高校野球を支えているのですね。

小松 この原監督の心の誓いが、東海大甲府を山梨の決勝戦で倒す、というものでした。やがて、この誓いは、ついに平成2年に果たすことができました。いつもは自分を決して見せない監督なのですが、この優勝のときは、ベンチの前で泣いていましたね。

早野 実況アナウンサーというのは、試合のほかに、さまざまな人生のドラマを見ているわけですね。

創意と工夫の実況 今年の野球の楽しみ方

早野 高校野球の実況をするための取材や、実況にあたってのご苦労

など、日頃から心がけておいでのことなどなことです。

小松 苦労というのは、好きな道ですからないので、中継にあたっては、いつもテーマを設けています。

1つは、何人かの選手を追ってみる、という手法です。これは、小学生の野球から観戦していく、注目に値する選手を発見します。そして、その成長をデータに取ります。やがて高校野球に登場した折りに、実況のなかで紹介します。

2つ目は、数字です。大会前に当然ながら優勝候補を予想するのですが、技術力や、データばかりでない、もうひとつの数字の世界にこだわっています。たとえば、山梨学院大附属が昨年の夏は優勝し、甲子園に行きました。この決勝戦は、鈴木監督の就任50勝目でした。こうした数字の不思議さは、調べてみますとかなりあります。

3つ目は、ジンクスです。たとえば、こんな楽しみ方もできます。今年の夏は山梨学院大附属と甲府工業の争いになるのではないかと、早くもあれこれ予測が飛びかっているのを耳にしますが、この両校の争いに

なるとすると、ジンクスによれば、甲府工業に可能性があるということになります。

早野 おやおや、それはどういうことでしょう。

小松 それはですね、甲府工業には大月東中学出身の選手がエースになると甲子園に行くというジンクスがあるのです。今度で、4回目になるのです。

早野 なるほどねえ。各学校の力量や試合分析、科学的なデータの上にたって、なおこうした観戦の仕方を加えると、これは興味は尽きませんねえ。やはり、昭和36年以来、野球中継に携わっているペテランの味わいですね。

小松 いえいえ、高校野球が好きで、むしろ高校野球に人生を教えられて歩いてきた道でした。

早野 今年も甲子園に向けて、試合をする側も、観戦する側も、わくわくときどきする季節を迎えるわけですが、今日は貴重なエピソードをお聞かせ願ってありがとうございます。高校野球が、何倍も楽しめそうです。

〔構成：三神 弘〕

高校野球を数倍楽しく観るために記録あれこれ

数々の名ドラマを生んで来た
県高校野球の歴史
ちょっと面白い
投打の記録をまとめてみました



甲子園出場を目指して活躍する県高校球児

県勢の甲子園出場回数と勝利数

夏の大会			
1 東海大甲府	8回	10勝	
2 甲府工	5回	3勝	
3 吉田	3回	2勝	
4 甲府一	*	1勝	
5 甲府商	2回	2勝	
6 日川	*	0	
7 市川	*	3勝	
8 谷村工	1回	0	
9 都留	*	0	
10 狹南	*	0	
11 巨摩	*	0	
12 塩山	*	0	
13 学院大附	*	1勝	
(1試合個人最多ホームラン) [3本]			
小林 健二	(谷村工)	平成2年・夏	
春の選抜大会			
1 東海大甲府	4回	8勝	
2 甲府工	3回	2勝	
3 甲府商	2回	*	
4 日川	1回	0	
5 石和	*	0	
6 狹南	*	0	
7 市川	*	3	
8 学院大附	*	1	
▲三塁打			
1試合最多 [3本]			
石原 嘉和	(日川)	昭和25年・春	
大久保 康夫	(巨摩)	昭和38年・夏	
永井 淳	(甲府工)	昭和50年・夏	
安富 浩二	(吉田)	昭和63年・春	
長谷部 浩一	(駿台甲府)	平成2年・夏	
赤沢 脇	(日川)	平成3年・夏	
▲二塁打			
1試合個人最多 [4本]			
山下 昌甫	(甲府一)	昭和24年・夏	
小松 道彦	(帝京三)	昭和39年・春	
▲サイクルヒット			
岸沢 明男	(日川)	昭和24年・夏	
加納 健二郎	(都留)	昭和61年・秋	

打撃部門

▲ホームラン (3年間の通算・個人の成績)

[6本]

奈良 不二也	(甲府工)	24年・春～25年・秋
大野 真樹	(東海大甲府)	62年・秋～平成1年・夏
山村 宏樹	(甲府工)	平成4年1年生大会

[5本]

山本 桂	(谷村工)	51年～52年・夏
花井 昭光	(東海大甲府)	56年・夏～57年・夏
菊島 浩一	(塩山)	56年1年生大会～58年・夏
二宮 哲彦	(東海大甲府)	59年～60年・夏
山根 善伸	(+)	61年・春～61年・夏
本多 範年	(学院大附)	61年・春～63年・夏
萩原 淳	(東海大甲府)	平成3年・春～平成2年・秋

(1試合個人最多ホームラン) [3本]

小林 健二 (谷村工) 平成2年・夏

▲三塁打

1試合最多 [3本]

石原 嘉和	(日川)	昭和25年・春
大久保 康夫	(巨摩)	昭和38年・夏
永井 淳	(甲府工)	昭和50年・夏
安富 浩二	(吉田)	昭和63年・春
長谷部 浩一	(駿台甲府)	平成2年・夏
赤沢 脇	(日川)	平成3年・夏

▲二塁打

1試合個人最多 [4本]

山下 昌甫	(甲府一)	昭和24年・夏
小松 道彦	(帝京三)	昭和39年・春

▲サイクルヒット

岸沢 明男	(日川)	昭和24年・夏
加納 健二郎	(都留)	昭和61年・秋

投手部門

▲完全試合

慶野 茂	(甲府工)	昭和46年・夏対塩山戦
●投球数	114	
●内野フライ	4	
●内野ゴロ	7	
●外野フライ	3	
●奪三振	13	
▲ノーアヒート・ノーアラン記録		
1 石川 幸夫	(巨摩)	昭和30年・秋
2 清谷 隆	(石和)	昭和33年・秋
3 志村 雄美	(増穂商)	昭和34年・夏
4 上田 和弘	(甲府工)	
5 秋山 悅司	(増穂商)	昭和37年・春
6 堀内 伸夫	(甲府商)	昭和38年・秋
7 鈴木 千束	(日川)	昭和42年・秋
8 大森 市三	(狭南)	昭和43年・春
9 望月 寿一郎	(甲府一)	
10 北川 達郎	(甲府商)	昭和50年・春
11 山本 桂	(谷村工)	昭和51年・秋
12 山本 博	(日川)	昭和55年・夏
13 小林 健二	(谷村工)	平成3年・春
14 赤沢 良	(日川)	平成6年・春
▲1試合個人・最多奪三振記録		
19奪三振		
鶴 岳己	(東海大甲府)	昭和56年・秋

現代人は彼に何を見ているのか？

豊臣秀吉という男

「信長の代5年3年は持たるべく候。高ころびにあおのけにころばれ候する見えし候。藤吉郎さりとてはの者に候」（毛利家重臣、安国寺惠瓊私信・信長は数年の間、政権を維持するが失脚する。秀吉が後継者となるだろう）。

不況の家康、好況の信長とはよく言ったもので、何故か景気のベクトルによってこの2人の書籍が売れるという。人生は重い石を背負って坂道を歩くと言った家康と、兵農分離、商業ギルドの廃止を断行し、天下布武を脱き、人生は50年と嘆いた信長。何となく景気のイメージに重なり合うところがあるかも…。

今、国営放送のドラマ放映などの影響を受け、出版業界を豊臣秀吉が席巻しているという。

「農民から一步ずつ階段を上りつめ、天下人になっていくプロセスにサラリーマンなどが共感を覚えるのではないか」とは、ドラマのプロデューサー氏。背景はそういうこととして、それでは秀吉とは？と言われると、受験時代の断片的な知識だけという人は意外に多いのではないか。

そこで今回のトピックスは、暗い世相を反映したネタの数々（住専、

HIV、大蔵省スキャンダル）などは隅に追いやって、ちょっと趣をかえて「たまには一休み」ということで、「秀吉への誘い」といきたい。

秀吉が大衆化したのは、実は明治期になってのこと。大衆娯楽として当時隆盛を極めた講談に登場してからだ。一夜城、清洲城石垣修築、高松城の水攻、中国大返し、醍醐の花見など、その折々のエピソードは枚挙にいとまがないほど。しかし、この秀吉、その後の江戸期にはむしろタブー視された人物だ。それというのも東照大権現、神君家康の究極のライバルである彼を、江戸幕府が許すわけにはいかなかったからだ。よほど江戸幕府は秀吉が氣にくわなかったらしく、現在の大坂城も、大阪冬・夏の陣で焼失したとはいえ、規模も遥かに縮小して、改築したものだ。

このように政権に反抗していた人物というレッテルを貼られ、秀吉に関する歌舞音曲は法度とされていたが、京洛の人々には根強い人気を持っていたらしい。当時から「太閤さん」と親しみを込めて呼ばれていたのも実は当然で、家康の穀物中心の農本主

義思想による統制経済下の近畿と、史上空前のゴールドラッシュ（当時の日本は金、銀の産出量ならば世界最大級）と言われた秀吉の時代の京都、大阪は、その華やかさにおいて比較にならない状況となっていたためだ。

当時の庶民感情は、例えば秀吉の名称をたくみに変えて、劇中に登場させたりしてカモフラージュしながら、秀吉の功徳を慕ったという。

史書の中の秀吉

例えば概ね一般の人々が抱いている秀吉のイメージは、元禄江戸期から明治期に確立しているようだ。信憑性はともかくとして、サル顔であったとか、針売りをしていた、今川家に奉公に行って追い出されたといった出来事は、小瀬甫庵の「太閤記」、秀吉の右筆であった大村由己の「秀吉事記」、竹中重門の「農鑑」、「豊臣太閤素生記」などに詳しい。また、信憑性という点では京都吉田神社神官の吉田兼見の「兼見卿記」、奈良興福寺の「多聞院日記」などをはじめ、公家系の「言經御記」といった史料が秀吉について詳しい。

上述の史料も素読できれば相当な器量と言えるが、現代人である我々はそうはいかないだろう。それでは現代語ということで、秀吉の出生や天下人にまでなるプロセスを追った出版物と言うと、やはり小説の類いということになる。

小説の中の秀吉

歴史文学の大御所と言える2人、山岡壮八と吉川英治の秀吉モノの「太閤記」（講談社文庫刊）は、甫庵の「太閤記」をベースに、限りなく講談本に近いノリが楽しめる。出生、織田家奉公、清洲城の石垣修築、墨俣一夜城、賤ヶ岳の7本槍、小田原征伐、醍醐の花見と言った、秀吉モノ必須の出来事を網羅している入門編と言える。

現在放映中のテレビドラマ原作の秀吉は、経済、物、金の流通などをベースにした元通産官僚の堺屋太一らしい手法によるもの。秀吉の位置づけは、例えば兵農分離による戦闘能力の飛躍的上昇、検地による統制経済、楽市・楽座の廃止による自由経済の導入といった視点から、彼の政治スタイルを、織田信長の踏襲に過ぎないという歴史観に基づき、天

下人に成れたのは、織田信長の門間を排除した取り立てによる出世と優秀な補佐役としての弟小一郎（後の太和大納言秀長）の存在を挙げる。この「豊臣秀長」（PHP文庫刊）や、信長と明智光秀（本能寺の変の首謀者、知勇兼備の武将）がそれぞれ独白形式で、同じ状況をそれぞれの感性で表現するというユニークな技法によって、織豊政権（織田と豊臣による時代）の推移を書いた「鬼と人と」（PHP文庫刊）などこれまでにない秀吉像を浮き彫りにしている。

また、司馬史觀というひとつの歴史を構築し、多分昭和期最大の歴史文学を確立したと言っていい司馬遼太郎の「新史太閤記」（新潮文庫刊）は、人たらしと言われた秀吉のエピソードを多くちりばめた好編。農民階層出身の秀吉が、どのようなプロセスで、封建土壌の身分制が確立している室町武士階級に入り込んでいくかといった微妙な機微を、一流的の筆致で描いている。作者にはこのほか、秀吉没後の豊臣政権を描いた「関ヶ原」「城塞」（共に新潮文庫刊）がありこちらも興味深い。

「下天は夢かで」織田信長の奔放な

生涯を描いて、一躍ベストセラー作家となった津本陽の「夢のまた夢」は、数多くの古文書、史料を駆使し、限りなく歴史に忠実な構成となっている。特徴的な事は、秀吉がすでに織田の被官となっており、毛利氏と戦端を開いているところからはじまり、どちらかというと多くの秀吉本が出世までのプロセスを克明に描写しているのに対して、秀吉後期の人物像を浮き彫りにしている点。特に唐入りと言われた、朝鮮出兵などについては一番読みやすく、詳しい。人が変わったと言われる前期の秀吉と後期の秀吉を比較する上で最高の一冊。



何故秀吉か？変革と改編、改革など激動の現代と秀吉の生きた室町時代一まさに封建体制が崩れ、新しい秩序が構築される時代。変化の中で巧妙に舵を取りながら、泳ぎ切った秀吉に、現代人たる我々はマニュアルを求めているのだろうか。戦乱に明け暮れた暗い時代に、身長150センチほど、天性の明るさと前向きな樂觀主義で乱世を渡り切った秀吉に我々は何を見つけるのだろうか。

【文：新谷敏之】



できるつ

TRANSPORT

+α



●株テスコ様



●株ヨネヤマ食品工業様

山梨を拠点に、限りなく広がる物流の可能性

事業内容

- 一般貨物輸送…一般、常用、専属
- 重量品輸送…取付け、取りはずし搬出入作業
- 入出荷請負…荷造り、梱包作業、出向代行業務
- 引越し輸送…ご家族のお引越し、事務所・工場の移転等
- JDCコンテナ輸送取扱い
- 一般貨物全国定期便、宅配便、航空便取り扱い
- 保険代理業務



甲府通運株式会社

本社 〒409-38 山梨県中巨摩郡田富町流通団地 3329-1
TEL.0552-73-0511 FAX.0552-73-9332
支店 〒409-38 山梨県中巨摩郡田富町流通団地 3211-14
TEL.0552-73-5471 FAX.0552-73-6277
東京営業所 〒174 東京都板橋区東坂下2-3-10
TEL.03-3967-6001 FAX.03-3967-6124

こんなコトも、あんなコトも「できるつ」運送業務だけではない+αの創造「甲府通運」はお客様のあらゆるニーズにお応えしています。

企業ウォッチング

代表取締役社長
飯室 光男 氏
いいむろ てるお

山梨日野自動車株式会社



●山梨日野自動車㈱企業データ●

1963年9月1日創業。日野自動車の山梨県地区販売会社として、大型、中型、小型のバス、トラックを始めとして、トレーラー、トラクター、その他特殊車両を取り扱っている。山梨県内シェアは40%に渡り、さらに充実した整備環境を整え、万余のアフターフィロー体制を目指している。
現在従業員111名。山梨県甲府市酒折1-2-10 電話 0552-120-6200

昭和36年9月創業の山梨日野自動車株式会社。昨年5月に、父親の老雄氏から会社を引き継ぎ、二代目社長に就任した。「先輩の残してくれた実績を大事にして、お客様に満足していただけるよう、あらゆるサービスを展開していきたい」と話す。キリリとした表情、積極的な口調に、仕事への意欲が表れている。

山梨県内のシェア40%を誇る

山梨県内のトラック販社は、日野自動車を含め主だったものが4社。その中で、日野自動車はシェア40%を誇る。「今後も40%のラインを維持していきたい。もちろん、それ以上になるよう努力しています。顧客満足度が重視される時代ですから、販売後のアフターサービスや、スムーズな部品供給などに気を使っています。それと同時に、営業マンの人材確保にも力を入れています。お客様と直に接するのは彼らです。売り上げは、いかにお客様に気に入られ、いかに信頼されるかにかかっている」。

今や物流の90%以上がトラック輸送という時代。昔の“大きくて恐い・危険”などというイメージから変わりつつある。「トラックはもう物流にはなくては



ならない存在。これから先、なくなるとは考られない。むしろもっと多方面に利用されるのではないでしょうか。子どもさんやお年寄りに脅威を与えるなどということがないように、トラックとまわりの人々とが素敵に調和するキャブスタイルと走り、地域の人々に愛されるトラック、その他視覚からくる重圧感が取り除かれるよう工夫されております。安全性においては、ブレーキ性能アップのためにあらゆる場面を想定した試験走行を行うなど、安全面の充実が図られています。さらに、お客様へのサービスの向上を図るため、本社と都留営業所、田富の流通センター内にある系列会社のサービス工場を、最近リフレッシュした。

社員の良い面を引き出していく

「現状はかなり厳しいものがあります。先代社長の経営方針を踏襲して、社員に信頼される人物になるべく奮闘したい。年輩社員の意見をよく聴いて、社員の持っている良い面を引き出したいと思っています。社員の欠点はなるべく見ないようにしております。人間誰しも長所、短所を持っていますから」と語る。「ち密な販売活動と迅速な部品補給、誠意を持ったアフターフィローが大事ですが、何といっても製品が良くなくては、お客様に自信を持っておすすめすることができません。会社も社員が良くなくては、と考えています」

「趣味はこれといってありませんが…、敢えて言うとゴルフくらいかなあ。休みの日は家でゴロゴロします」と笑う。多忙な飯室氏にとって休日は、家族と過ごす貴重な時間のようだ。

[取材：赤井美佐恵]

みたけ 昇仙峡・御嶽そば保存会

「伝統の味を守ろう」と立ち上がる地元・御嶽昇仙峡にこだわり続けて復活した幻の“御嶽そば”



皆どうしてこうそばが好きなんだろうか。東京・神田の「やぶそば」には、いつでも長蛇の列ができ、旅行にいけば、必ず地元名産のそばを食べたがる。中・高年が主なお客さんかと思いきや、イタリア料理だの、タイ料理だと騒いでいる若者たちも、そばはよく食べる。お手軽な駅の立ち食いそばから、コンビニのそば弁当、どこの食堂にも必ずある天ぷらそば、本格的には、そば屋のせいろ、戸隠そば・京都のにしんそば・新潟のへぎそばなどの地方名産のそばなどなど…、多種多様にある。

江戸時代の甲斐の地誌「裏見寒話」に、「太蕎麦・御嶽の名物にして至りて太し、さながらつなぎに小麦粉杯いれざる故に、風味貴すべし」という記述がある。御嶽昇仙峡に古くから伝わる“御嶽そば”的ことだ。今は有名無実となってしまったこのそばを復活させようと、昨年9月、有志が立ち上がり“昇仙峡・御嶽そば保存会”が発足した。

江戸時代の「裏見寒話」もとに 幻の味“御嶽そば”復活へ奮闘

「文献調べていくうちに、非常に歴史のあるそばだということが分かってきましたね。昔の味に復元しようと保存会を結成しました」と話すのは、保存会の会長で甲府市立図書館長の植松光宏さん。各地のそばを食べ歩くだけでは飽き足らず、自らそばを打つというほどのそば好き。保存会のメンバーは16人。昇仙峡で旅館を営んでいる人や土産物屋さん、昇仙峡美術館の職員、ローブウェイの関係者など、地元・昇仙峡の人たちが「町づ



“御嶽そば”について熱っぽく語る植松会長

くり、村おこしなれば」と参加している。

「裏見寒話」をお手本に、忠実に再現していく。あくまでも“地元・御嶽”にこだわる。そばは地元の畑でわざわざ栽培した。地元の湧水を使い、昔ながらの石臼で粉にし、卵水をつなぎに打っていく。打ち方も、地元のおばあちゃんに手ほどきを受けた。こうして、御嶽のそば粉を八割使って打ち上げられた“御嶽そば”は、黒く、太く、不揃いと、見た目は無愛想だが、口に入れるとそば本来の香りがパッと広がり、コシが強い美味なそばだ。薬味には「裏見寒話」の「御嶽の大根、形は鼠のごとし、蕎麦の辛味に用ゆ」とある通り、ワサビの代わりに、辛子大根といわれる「ねずみ大根」をすり下ろして入れる。この「ねずみ大根」も、メンバーがわざわざ長野まで出



保存会のメンバー

向いて種を手に入れ、地元の畑で栽培したものだ。この大根、名前の通りねずみに似た形をしていて、お味は口が曲がるくらい辛い。

第1回試食会 好評を博す 御嶽昇仙峡の活性化に役立てば

研究に研究を重ね、練習会を何回も行い、昨年12月3日、地元の荒川ダム・ふるさと記念館で「試食会」を催すまでにこぎつけた。当日は、山本栄彦甲府市長や長田政明敷島町長をはじめ約100人が参加。御嶽そばの昔からの産地である黒平のお年寄りに応援を頼んで、保存会のメンバーが腕によりをかけて御嶽そばを打った。最高の味が出る「採れたて、打ちたて、ゆでたて」の「三たて」そろいに、参加者はご満悦。そばには、地酒、黒平特産の花豆の煮物、焼いた川魚を添え、つゆも地元産のしいたけの香りを生かしたかえし汁を使い、そばの入れ物も青竹を半分に割ったものを使うなど、御嶽の雰囲気にこだわった。「コシがあっておいしい」「そばの香りがぶんぶんする」など、非常に好評だった。

植松さんは「研修を積みながら技量を深めていきたい。御嶽そばが、御嶽昇仙峡の活性化につながれば嬉しいですね。「御嶽のそばはおいしいから」と、遠くからわざわざ足を運んでもらえるようになれたらと思っています」と話す。そばで村おこしをしている例は多いし、成功例も多い。「御嶽そばで、御嶽昇仙峡を盛り上げることができたら」—。保存会の夢は大きく膨らむ。

[文：赤井美佐穂]

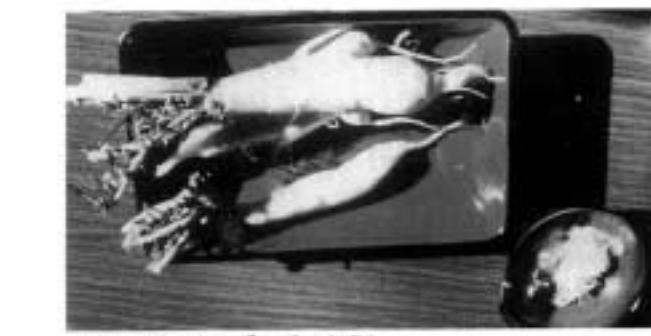


第1回試食会で打たれた“御嶽そば”。添えられた川魚もおいしそう



昔ながらの石臼でそばをひく

黒平のおばあちゃん達も大活躍



薬味に添えられた「ねずみ大根」

◆昇仙峡・御嶽そば保存会◆

平成7年9月に発足。甲斐の地誌「裏見寒話」にも記されている“御嶽そば”的復活に力を注ぐ。メンバーは地元・御嶽昇仙峡地区の人々を中心16人。今年は、山開きに合わせて、地元の金桜神社へ夏そばを奉納することを計画中。また、そばの名産地へ出かけて研修会を開き腕をみがくと同時に、地元の人との交流会も開く予定。

会長：植松光宏

〒400 甲府市吉永中町1098-1

TEL 0552-52-8783

早野グループ4社から 一番ホットな情報を届けします

リフレッシュ建設まつり ~CCIフェスティバル・小瀬~

産業の空洞化が懸念されている今こそ、建設産業は地域に根ざした基幹産業として自信を持って広く山梨県民の期待に応えなければなりません。

そこで、山梨県建設業協会は「リフレッシュ建設まつり」を主催します。多くの県民に参加していただき、共に楽しみ、日頃のご愛顧を感謝しながら地域の皆様と共生できる、親しみやすく魅力ある業界のイメージを確立しようと、若年労働者の喚起確保や、会員相互の交流、建設業界の発展に寄与するとともに、社会に貢献することを目的としています。建設をPRする企画や、楽しいイベントがもりだくさん。コンサートのゲストは森口博子さんです。

日時 平成8年4月21日（日）9：00～18：00

場所 小瀬スポーツ公園

イベント & スケジュールのご案内		場所	項目/時間	8	9	10	11	12	13	14	15	16
メインステージ (芝生広場)	ウルトラ ライス											
	コンサート											
サブステージ (やまなみ広場)	アマティア バンド											
	野球大会											
	相模原市六 ユニフォーム コンテスト											
	日焼け											
	建設ふれあい店場 (第2芝生場)											
建設機械展示会 ＆リニアミニSL												
建設ふれあい店場 相模原市												

早野組
甲府市東光寺1-4-10 TEL 0552-35-1111

オープンカーを探るという満足

MR SPIDERは「オープンの楽しさ」を基本コンセプトにミッドシップカーのMR2にオープンエアモータリングの魅力を付加した車両です。フルオープンにこだわった着脱式の幌と、専用にデザインされたエンジンフード等により、ベース車とは一味違う新たな魅力を備えており、車にこだわるヤングアダルトの方にご満足いただけるものと確信しております。

晴れた日にトップを開けて走る爽快感。季節の移り変わりを空と風で感じる喜び。数々



の制約を抱えてもなお、走りへの欲求を満たすオープンだけの特別なドライビングプレジャーがここにあります。スポーティなスタイリングにこだわり、幌を簡易式ソフトトップとしたのも、フルオープンへの徹底した思いがあったからこそ。さらに優れたドライバビリティを実現する、3S-GEスポーツツインカムを搭載。オープンエアモータリングを満喫できる、MRスパイダーの誕生です。何よりもオープンを愛するドライバーへ、満ち足りた時間をお届けします。

トヨタビースタ山梨㈱
本社：甲府市朝氣3丁目10-21 TEL 0552-32-5511

トヨタホーム建売分譲推薦物件

①東山梨郡勝沼町藤井《トヨタホーム・オーク》

金額 2,980万円（税込）

土地 231m² (70坪)

建物 119.62m² (36.18坪)

●勝沼農協直売所北隣、信号北へ50m

②山梨市西《トヨタホーム・メレーゼC20》

金額 2,815万円（税込）

土地 165m² (50坪)

建物 88.72m² (26.83坪)

●岩手小学校、保育園徒歩1分

③甲府市国母《トヨタホーム・ラーチ》

金額 3,943万円（税込）

土地 166.25m² (50.29坪)

建物 94.34m² (28.52坪)

●甲府南LCより車で5分

④境川村大坪字獅子坪《トヨタホーム・ラーチ》

金額 3,073万円（税込）

土地 233.48m² (70.62坪)

建物 105.28m² (31.84坪)

●甲府南LCより車で5分

全物件

軽量鉄骨2階造・即入居可・売買形態：代理

宅建登録番号：山梨県知事(3) 1441号

*詳細については下記までお問い合わせ下さい

トヨタホーム山梨㈱
本社：中日摩郡田富町流通園地3329-1 TEL 0552-73-0611

従業員の従業員による従業員のための娛樂

当社には、従業員相互の親睦を目的とした、いくつかの親睦会があります。その最も盛んなのが「むつみ会」です。これは相互扶助の精神に基づき、会員（全社員）同志の親睦と、慶弔見舞金制度の規定を設けて、発足以来二十数年続いています。二年任期の役員は、会長他八名で構成され、年に一度のバーベキュー大会や退職者の送別会などの活動も行なっています。

また、仲間が集まってできた会もあります。ゴールデンウィーク期間中に実施する、旅行を目的とした「遊交會」、雪のシーズンには「スキー愛好会」、春から秋にかけては、ハイキングを楽しむ「有愛山歩会」等。皆それぞれ忙しい中、余暇を利用してのこうした娛樂で最初は小さな輪が年々広がっていくように思えます。



甲府通運㈱
本社：中日摩郡田富町流通園地3329-1 TEL 0552-73-0611

市川代官所の典医として 江戸末期遣米使節に選好く選ばれた人

広瀬 保庵

(ひろせ ほあん)

上野 晴朗

うえの はるお
1923年山梨市生まれ。歴史家・作家。県立図書館郷土資料室を経て67年から文筆活動に入る。著書に「甲斐武田氏」等多数

日本が長い鎖国夢を絶って世界への窓を開き、アメリカとの間に日米修好通商条約を結んだのは、安政5年（1858）のことであった。

尊皇攘夷・開国両派は相変わらず争っていたが、一方では時ならぬブームに湧いた横浜開港を中心にして、外国との貿易が理屈ぬきに進展しはじめ、その外交関係から徳川幕府はアメリカとの約束によって、否応なく日米通商条約批准のため、アメリカに使節を送らねばならなくなつた。

この結果、万延元年（1860）1月出発に当たって選ばれたのが、正使新見豊前守・副使村垣淡路守・目付小栗忠順ら一行96名であった。随行として勝海舟の咸臨丸が別に従つた。この遣米使節96名の中に三名の甲斐国の関係者が加わっている。森田岡太郎（清行）・広瀬保庵（名は包章・通称を格藏）・五味安郎右衛門の三人であった。

森田は石和代官から市川代官を勤め、さらに勘定組頭に進んでおり、遣米の随員となつたのだが、そのおり五人の従者の中へ保庵と安郎右衛門を加えたのである。

市川大門の広瀬家は代々代官所の典医を勤めてきた家柄で、保庵（格藏）の出生は丹波篠山の藩士の家に生まれたが、広瀬家の養子となり、万延元年50歳で使節の一員に加わったのである。その妻の兄が五味安郎右衛門で、初めは弟の四郎兵衛が候補



広瀬保庵の像（文政9年正月、藤原山がつくる）

にあがつたのだが、弟が遅れしたので60歳の安郎右衛門が買って出たのだという。

実際に遣米使節の栄えである人選といつても、日本の長い封建社会の迷夢を突きやぶる破天荒の出来ごと

であったから、因襲の強い社会から随行者を決めるにはかなりの勇気を必要とし、好奇心と冒険心の富んだ者でなければ勤まるものではない。従者の中には正規の役人（武士）ではなく、農商出の者で一応苗字帶刀を許されて参加しているのも、冒険と好奇心の強いものがすんで参加している証左のようなものであった。

遣米使節一行に対するアメリカ側の歓迎はまさに熱狂的で、プロードウェーを通過する使節を迎える群衆は数万人、建物の窓という窓に日本旗が飾られ、ワシントン波止場には高く日章旗がかかげられて、その様子が新聞ニュースとなって大々的に報じられたという。

正使三人が前を通ると、従者達が一せいに土下座する姿をアメリカの画家は驚嘆して眺め、それを絵にした。まさにサムライ日本を象徴する土下座の姿であった。

もちろん日本人もまた、初めて見聞きするアメリカ大陸に好奇の眼を光らせ、日記や紀行文をそれぞれ克明に記録している。甲斐國ゆかりの三人も、森田は「亞行日記」、五味安郎右衛門も「亞行航海日記」を書い



アメリカ国旗 星条旗
当時はまだ星数は32個だった



キャナン大統領の記念メダル
遣米使節はそれぞれこのような記念品を持ち帰った



広瀬保庵の名著「環海航路日記」

ているが、とくにすごいのが広瀬保庵で群を抜いて高く、「環海航路日記」と「環海航路新圖」をものにし、しかも出版して世に問う注目をうけている。

「環海航路日記」の内容を検討してみると、保庵は医師らしい繊細な科学的観察力でアメリカの風土を的確にとらえている。ただし、出版した紀行文の方は前編上下二冊だけでパナマまでの部分であるが、惜しいことに後編の方は失われてしまい現存していない。

前編を通してみると、大陸の草花や黒人に驚いており、いまのパナマ運河のところで、初めて汽車を見、その汽車に乗ってみた驚きを素直に綴っているのも興味深い。しかも彼は絵を描くことが上手で「日本人初めて汽車に乗る」と、その見たままを絵巻にして残し、図解しているのも面白い。まるで絵本を見るような楽しさである。日記からその箇所を引例してみると、

「…車の下二行に幅五、六寸の鉄を敷きたるを見て、初めて蒸気車に乗りたるを知る。昔々大いに驚き、それよりよく見れば、この家の長

さ六間、幅、内にて八尺、車のわたり一尺三寸ばかり、厚さ三寸位の鉄輪なり。車、左右前後合わせて八つ、柱のたぐい皆締き木を用い、屋根も薄板にてそのこしらえ軽くして、全く我邦の引舞台に同じ。さて、ざん時ありて少々動き、ホラのごとき声を發して矢の如く家の内をとび出せり…」

と綴っている。当時のアメリカ鉄道の一端を垣間見る思いがするが、八両連結の列車の車両を家と表現し、個々のものを引舞台と同じようだと指摘しているのも興味深い。しかも「ホラの如き声を發して矢の如く家がとび出していく」という表現も、遣米使節全員の「日本人初めて汽車に乗る」の最も端的な感動の表わし方といえるだろう。

保庵のもうひとつの遺産「環海航路新圖」の方は、おそらくアメリカで手に入れた世界地図に驚愕し、さっそく買い求めてその地図を基礎に、その中に使節団が通った世界一周の場所を克明に記録していったもので、きわめて貴重である。

たとえば封建社会の日本では、日本絵図が初めて版におこされたのは

寛文2年（1662）のことであった。日本国の大輪郭はどうやら描いてあるが、一歩海外のこととなると朝鮮半島はどうやら描いてあるが、太平洋のど真ん中にアメリカ大陸より大きい国が描かれていて、その解説に「羅利國、こら國女バカリすむ國なり、男行ぬれば二度と帰らず」とあったり、また北の國ロシアの辺は「雁道、此國之人形、人にあらず」とあっさりと片付けている。

その封建社会から日本人達が初めて公に自由の國アメリカに渡ったのであるから、保庵が世界地図を初めて手にして、その航路を記録したことの意味は大きい。つまり世界地図を意識的に採り上げた最初の日本人であって、しかも版におこして封建社会日本に警鐘を鳴らした点がすごいと思う。

使節一行が持ち帰ったアメリカやげもブキャナン大統領の記念メダル・星条旗などがあり、五味安郎右衛門のみやげ品などみると、入れ歯や避雷針のアースなどがある。当時アメリカは入れ歯の技術が世界一、60歳の安郎右衛門にとってなによりも魅力があったのだろう。

ボクの美術品観察日記1

カミュー・ピサロ「ディエップ港」

山本 育夫

やまもと いくお
詩人
ミュージアム・マガジン・DOME（ドーム）編集長

「美術品観察学会」発足

雑誌の編集のかたわら「美術品観察学会」なるものを発足させた。学会などというと、なにやらいかめしく聞こえるかもしれないが、とにかく日本中にある美術品を「観察」してその観察記録を投稿していただき、毎月発行する会報に掲載していくというものである。国籍、性別、年齢、学歴など一切問わない学会なので、関心のある方は参加願いたいのであるが、ではその「美術品観察」とはいかなるものなのかなと、思われた方もいるだろう。「美術鑑賞」ではなくて「美術品観察」というところに、ボクの思いの丈があるので、まあ、「鑑賞」というとなんだかしこまつて詮めたたえなければならないような気分にさせられるが、「観察」というと、ほら、「昆虫の観察」とか、「自然の観察」とか、「植物の観察」とか、ことものころからなじみのあるスタイルであるから、入りやすいのではないかと思った次第なのだ。「美術」のあとに「品」をつけたのも、絵画や焼き物も「品物」には違いないわ

けで、こう、なんとなく突き放した感じがしてよろしいのではないかと思ったからだ。もちろん、「トマソン」で一躍有名になったあの「路上観察学会」を受けてのネーミングである。

観察方法

というわけで、この学会には、美術館の学芸員や美術関係者はもちろん、大学教授や大学生や中学生、大工さんや、酒屋さん、お米屋さんや主婦のみなさんなどなど、実に多彩な「職業？」を持つ人々が参加しており、熟年観察学会やら、お母さん観察学会、こども観察学会などさえ生まれようとしているのである。

美術品観察の具体的な方法は、すでにこのコラムをお読みいただけてきたみなさんにはおわかりのように、名画に描かれた動物についてうんちくを傾けたり、描かれた建物、描かれた服装、描かれた空の色や雲の様、描かれた風景、描かれた山や樹木、描かれた……、とこう書き連ねていくともうきりがないのではあるが、描かれた美術品を目の前にして、あれ

やこれやと楽しむ方法を探し出そうというわけだ。つまり、名画にはいろいろなものが実際に多彩に描かれてきたということでもある。それをじっくりと観察して、どこぞこの絵の中の犬はなかなかの掘り出し物ですぜ、とか、どこぞこの絵の中に描かれた不思議な光についてそっとお教えしましょうとか、まあ学会員どうして教えあって、美術品を自分流に楽しもうというわけなのだ。

名画天気予報

今回から、こうした美術品観察の例をしばらく紹介していきたいと思う。時には学会員の観察報告なども合わせて紹介していきたいと考えている。

さて、そこで、第一回目は、ボクがミュージアム・マガジン・ドームで新連載を始めた「名画天気予報」の番外編をお届けしようと思う。文字通り、名画の中には実際に多彩な「空」が描かれてきた。そして、空にはまた「雲」が描かれている。その雲から、「描かれた日の空模様」などを予報してみようという趣向である。

「ディエップ港」
カミュー・ピサロ
1902年
油彩、カンヴァス
60×73cm
個人蔵



晩年の港町風景

昨年の10月、東京のセゾン美術館で開催された「印象派・後期印象派展」のカタログに、次のようなピサロの手紙が掲載されていた。「明日私はディエップに向けて発ち、あちらで宿を探すつもりだ。ディエップは画家にとって絶好の場所である。画家は快適な暮らしと色彩を手に入れることができるからだ。そこには何人かの友人がおり、描きたいいくつかのモチーフもある。たいそう暑っているけれども、私はここにまた戻ってくることにした」

ピサロはこの港にあるオテル・デュ・コルメスに宿をとったのだが、この宿の窓から、魚市場や内港、デュケース湾や、ル・ポレ村などが一望できたのだという。

ではこの絵に大きく広がる美しい雲はいったいなんという雲なのであ

ろうか。すばり、この雲の名は「隙間雲」。高積雲や層積雲に現れる独特な表情である。雲の隙間から青空が見え、時には太陽や月などが顔をのぞかせる。大地に近いほうに横にゆったりと横たわるかのような積雲があり、その上の層がゆっくりと天の中心に向かって流れ出すような表情が特徴である。右側には黒い大きな雲塊があるので、しばらく前に一雨あったかもしれない。

そう思ってみてみると、人物の中に傘を持っている人がいそうな気もしてくる。いずれにしろ季節は夏。通り雨のように港町をさっと濡らせてから行き過ぎた雲である。雨かと思ったらもう晴れ間がのぞくといった気配だ。

ピサロは晩年、雨の日、晴れの日、霧の日などさまざまな天気の中でキャンバスに向かい、絵を描き続けた。この絵を描いた翌年、パリで亡くなった。享年73才であった。

情報の宝庫 インターネット 上手に使って 世界中の 図書館、企業、ショップとアクセスしよう



インターネット。今、巷で、はやり言葉のように使われているけれど…。去年いや一昨年あたりから、ちらほら聞かれてはじめて、「ウンドウズ95」の発売と同時にマスコミの話題を独占してしまいました。日常会話の中にしばしば登場しますが、ちゃんと理解して話している人って以外と少ないんじゃないでしょうか。読んでいるあなた、説明できますか。いったいインターネットって何者?

●世界中の情報を机の上でキャッチ

インターネットは、アメリカ国防総省が中心となって1960年代末から計画、開発されてきた、情報と情報のネットワークのことです。この情報はコンピューターやパソコンで呼び出すことができます。「えっ、ワープロじゃ出来ないの?」なんて言っている人は、もう少し勉強してから読んでください。

各社、各機関（もちろん個人の場合もあります）でホームページという、まあいうなれば自分の宣伝ページを持っていて、それをパソコンの画面に呼び出すことが出来るのです。我々はその画面に映し出される情報を利用するというわけ。

具体的な例を挙げますと、ホワイトハウスのホームページを呼び出せば、クリントン大統領のメッセージを読むことが出来るし、ルーブル美術館を呼び出せば、名画「モナリザ」が色付きで画面に現れ

るし、アポロの月面着陸の様子を見たいなあと思えば、スミソニアン博物館のホームページを呼び出せばいいんです。そればかりでなく、グッズのバッグやシャツのスーツも、それぞれのホームページで眺めることができ、注文し、品物によっては、注文票にクレジットカードの番号を添えてインターネットで送信すれば、品物を郵送で届けてもらうこと



自分の机の上で世界中とアクセスできる

世界中のありとあらゆる情報を手にすることができるんです。"世界"というものが急に狭くなつたような気がしてきませんか?

●21世紀には利用者2億人??

「インターネットはパソコン通信とはどう違うんだ?」。いい質問が出ましたね。パソコン通信というのは、すべての情報がホストコンピューターに入っていて、個々のパソコンが、そのホストコンピューターを仲介してやり取りしているんですね。つまり、ホストコンピューターがしきりにやってくれるわけです。中央集中型。結構、管理され組織っています。対するインターネットは、これはもう、自由奔放型。個人主義と申しましょうか。しきり屋のホストコンピューターなんか無いんですから。自由に個が個に接触できるのです。

もできます。カタログを取り寄せるのに何週間もかけているのとはわけが違います。一瞬ですよ、一瞬。

何といいましょうか、電子美術館、電子図書館、電子ショップ、はたまた巨大な電子通販カタログとでもいいましょうか。地球上のどんな所一そく、北極でも南極でもアマゾンでも八丈島の山の中でも、パソコン1台あれば何の苦労もなく、インターネット始めますか?

こんなところに山梨 思ひがけない場面で ふるさと再発見

富士川はその昔、日本3大急流として知られ、鰐沢は富士川水運の要所として栄えていた。

落語の「鰐沢」は、円朝が三題漸（さんだいばなし）として創作したもので、身延山へ参詣した帰り、江戸の旅人が雪の道に迷っていくことからはじまる。三題漸とは、客席から自由に3つの題を出してもらい、これを即座に落語にまとめるものだ。

雪の中を迷った江戸の旅人は、やっとのことで一軒の家を見付けて助けを求める。そこは獣人の家で、亭主はまだ戻らず、女房が一人である。情けにすがって家に上げてもらい、暖炉裏の明かりで見ると、女はまれに見る美しさである。話していくば、やがて、もと江戸吉原の花魁（お

いらん）で、顔見知りであることがわかった。

女は郭（くるわ）の縫を破ったあげく、好いた男と共にこの地に隠れ住んでいるのだと打ち明ける。

旅人は卯酒をご馳走になり、寝か

古典落語の「鰐沢」 身延の山中、銀世界の なかに現われた 江戸の女の艶やかさ

せてもらった。ところが帰ってきた亭主に話している女の声が聞こえてきた。卯酒にはしづれ薬が入れてある、あの男の胸巻きにはかなりの金が入っているはず、と告げている。

旅人はふと身延山で貰った毒消しの御符紙のあったことを思い出し、これを紙ごと口に頬ばると、雪のな

かへ逃げ出した。その気配に、女は鉄砲を持って追いかけてきた。

やがて、鰐沢の急流に出た。これはもはや絶体絶命と、旅人は川へと飛び込んだ。旅人目がけて、女が鉄砲を撃ち込む。旅人は、真っ逆さまに川に落ちたが、落ちたところは筏（いかだ）を組んだ材木の上だった。

この衝撃で、結び付けてあった綱が切れ、筏は川を流れ出した。旅人は思わず、こう叫ぶ。「ああ、危ないところを、おだいもくで助かった」。

おだいもくは、お材木であり、お題目、である。つまり、信心のご利益で助かった、というサゲである。

この「鰐沢」は、古典落語のなかでも出色の三題漸として知られているが、その3つの題とは、「毒消し」「鉄砲」「卯酒」とされている。ふるさと甲州を題材にした、人情漸の一席。近年では、林家正蔵の得意の演目だった。

(寿)

Book

人はどこで考えるか 「腹と胸」

佐竹隆三 著



人を指して「あの人は頭がいい」というときには、ほめ言葉であると同時に、非難の言葉ともなる。従来は、良い意味で使われていたようだが、近頃は皮肉に使われることの方が多い。

現代は学校でも、社会でも、学力や学歴で判断されることが多い、いわゆる「頭でっかち」の人間が増えている。つまり、経験や、カンやコツよりも、机上の論理を振り回す連中で、人間味にも欠け、付き合いにくい。日本人は、一体これまで、どこで考えたり、感じたり、判断したりという日々の営みをしてきたのだろうか。

それを知るには「頭」「胸」に関する言葉と、その使い方を書き出し、比較してみる

とわかりそうだ。「頭」「胸」ばかりではない。昔の日本人は「腹」も使って生きてきた。この3つを検討してみよう。まず「頭」には、頭を悩ます、頭が固い…などがある。考る場所であることがわかる。「胸」には、胸が弾む、胸を焦がす…などがある。考る場所であることがわかる。「腹」は、腹に収める、腹づもり…などがある。考る場所であることがわかる。

さて、日本人が最も大切にしてきたのは「腹」である。身体中を使って元気いっぱい生きよう、というヒントになる本である。(川)

大正大学選書 ¥1500

会いたい人から 会いたい人へ
知りたいことから 知りたいことへ
リレーでつなぐエッセイ

青春の街



佐野 秀延

さの ひでのぶ
シルクハットの会

甲府の北の街、緑が丘に住んで、30年余りになる。

今年の正月、高校時代の友人から何十年ぶりかの便り、何事も電話で済ます時代だけに感動もひとしお、遙か遠い甲子園を夢みながら、緑が丘球場でプレーをした頃のことが織られていた。夏！盆地特有の猛烈な暑熱も何のその「かっ飛ばせ、かっ飛ばせ…」湯村山に宿する応援団の声援。期待に応えるかのように「カーン」と快音を残し、打球はセンター前へ。スタンドから沸き上がる大歓声。永遠の友情を誓った青春時代が、昨日の事のように脳裏をかすめる。

サムエル・ウルマンの詩の一節に「青春とは、人生のある期間ではなく心の持ちかたを言う」とあるが、緑が丘は、そんな気持ちを持続させる「青春の街」である。『日本地名大辞典』によれば、「荒川支流の相川中流沿岸に位置し、もとは緑が丘町、和田町、湯村町の各一部町内には、法泉寺山門と閑屋往還を結ぶ参道が通っており、参道入口を示す高さ3メートルの石がたてられていたが、住宅地化が進むにつれて石は山門の

前に移され、参道も変更された。また閑屋地蔵も、第一次道路拡幅改良工事の際、交通上支障にならない場所に移転した」。

また太宰治の小説、『犬養譲』に「早春のこと夕食のまえに、私はすぐ近くの49聯隊の練兵場へ出て…」と云うくだりがあるが、第2次大戦前には歩兵49聯隊の練兵場で、終戦後は開拓地となった地域。昭和27年から、10年間を費やし、県営総合運動場が完成した。

かいじ国体開催以後、緑が丘は激変する。スポーツ大会等のメインは小瀬町へ。原風景が、がらりと変わる。春、花見を楽しんだ大きな桜の木。夏、涼しさを求めるボーラー並木。秋、黄葉が見事だった大きなイチョウの木等、四季折々を楽しめてくれたものが消えて行く。寂しさも束の間、「船出広場」なる整備された公園が出来、天気の良い日など家族連れで賑っている。街路樹もボーラーからハナミズキへ。変貌していく街。最近読んだ2冊の随筆が心に染みる。報道写真家の石井幸之助氏は「ふるさとは地名にあり」という随筆の中で「どんなに立派な建物が出

来てもどんなに機能的な都会でも所詮都市自体は入れ物。そこに生きる人間同士、お互いの存在を尊重し、いたわりの善意が働くなくては、心貧しい冷たい人間の集落にすぎないだろう。古い昔、ふところは寂しくても、江戸を心ゆたかに人情で支えてきたのは、市井の人たち」。又、音楽評論家の吉田秀和氏は「ミラノの街角で」の随筆の中で「ミラノの街の人たちが、勝手に歩けるのは、いざという時は、車が歩行者を優先させる心のゆとり、心の働きを持つと安心しているからだ」と書いている。

21世紀に向けて、「環境にやさしい暮らしと町づくり」が叫ばれている。野球場からは球春を告げるかのように、甲子園を目指す高校生の練習の掛け声が聞こえてくる。「かけぬけろ夏、風をきれ山梨で」そんなのはり旗が、街のあちこちに夏の高校総体に向けて。豊かな自然の中で、四季を通じ早朝散歩やジョギングそしてテニス等に精を出す老若男女。湯村山を背景に、緑が丘の街はいつも青春真っ只中。そんな光景が何時の時代までも統いて欲しいものである。

甲府通運前史を訪ねる（2）

<甲府通運のページ>

機械化未発達の時期
先輩達は物資運送に力を注いだ



中 央東線鉄道工事で名を挙げた早野組は、県下土木工事に積極的に参加するとともに、鉄道とも密接な関係を保っていく。当時の全国国有鉄道を所管する鉄道省（現在の運輸省の前身）は、全国各駅に発着する貨物の取扱免許を内国通運会社（のちに国際通運となり現在日本通運）にあたえ、各駅現場ではその貨物の積みおろし作業は現地の業者に委託するという形態をとっていた。鉄道敷設工事や資材運搬という実績をもっていた早野組は、鉄道開通にともない、甲府盆地塩山駅から西の信州岡谷に到る各駅の積みおろし作業を一手に請負うこととなつた。現代の陸上輸送は自動車によるとも言えるが中央線が開通した明治時代は、鉄道による大量輸送が最も信頼され利用されていた。中央線鐵

道計画のはじまりは、甲州・信州の生糸業者がその工場の動力源としての石炭を横浜港から内陸部の甲府盆地や諏訪地方に安価に大量に運送する必要からであるともいわれている様に、鉄道によって運送される物資の量は多大でありまた現代のような機械化も未進歩の時期、すべての貨物の積みおろしは人の力によらざるをえなかった。さらに駅に到着した貨物は荷車や荷馬車（バリキ）で目的地まで配達したり、県下各地で生産された品物は近くの鉄道駅まで運搬して積み出されることとなる。すべて人の力を主とした手間と労力は今日では考えも及ばぬほどのものといえよう。前にも引用した中部鉄道管理局が出版した『小運送ト諸掛』（明治45年版）の甲府駅の部をみると、甲府から発送される貨物のうち、生糸は甲府市内から箱入りか蓮包綱掛け荷として荷馬車一台に25箇積んで駅へ運ばれ、7屯貨車一台に125箇積み込まれてその手数料が一屯当たり1円87銭、煙草（きざみ）は箱入り包装で荷車に25個積んで中巨摩の飯野村（現白根町）から3里18丁（約13キロ）の道を甲府まで運び、貨車一台に145個積んで手数料は一屯当たり36銭、甲州名産のぶどうは籠入りで甲府市内近隣から荷馬車で20個、人のひいた荷車では半分の10個積みで貨車に130個積みで運送手数料は一屯当たり30銭となっている。和紙の産地市川大門に富士身延鉄道と呼ばれる私鉄が来るのの大正9年のこと、それまで市川の和紙は富士川を船で下るか荷馬車で甲府駅まで運んで鉄道で発送するかどちらかであったが、荷は蓮包綱掛けで荷馬車に25個積みで貨車一台に125個積み、手数料は一屯当たり30銭となっている。荷車や荷馬車での貨物は何台分もの荷が必要だし、到着した貨車一台分の荷物を処理するには多人数の労力が必要となる。

明治期塩山以西、岡谷までの各駅の積みおろし作業の請負権を確保し運営して来た早野組であったが、拡範囲な取扱駅での作業は非能率であるとの見地から、その取扱駅を本拠地甲府を中心に甲府、石和、酒折（大正15年2月新設駅）と身延線の南甲府駅の4駅としづり込んで本格的な運輸業へと発展する。

林 陽一郎

はやし よういちろう
山梨県教育委員会・県史編纂文化財担当

ハイエース使って効率よい営業展開
“誠心誠意”をモットーに、社員1人1人が
お客様に満足していただけるよう努力しています

株式会社 小林事務機

昭和54年創業。事務用品、オフィス機器、OA機器などの、事務に係わるあらゆる品を扱っている。「ボールペンや鉛筆などの小さな物から、コピー機やパソコン、FAXなどの大きなものまで、数えていったらきりがありません」と小林茂富社長が話すように何百、何千という種類の品目を取り扱う。現在は、年度の切り替えで、2月から4月にかけて、1年中で一番忙しい時期だという。社員も土曜日の休みを返上して、がんばって



いる。コクヨ、リコー、東芝、NEC、カシオ…。敷地内の倉庫には、いろいろなメーカーの製品が並び、同社の好景気ぶりが感じられる。

品物の主な卸し先は、山梨県下の公官庁や企業、高校、大学など。この営業エリアを、8人の営業マンでカバーしている。小林社長は「営業マン1人1人が会社の代表です。いつも、誠意を持ってお客様に接するようにと話しています。誠心誠意お客様に尽くせば、きっとお客様も分かってくださる—そう思ってがんばるようにとね」と話す。

広い営業エリアを、少人数で効率よくカバーするためには、使い勝手のよい車が求められる。ここで活躍しているのが、トヨタビスタ山梨のハイエース2台(トラックタイプとワンボックスタイプ)。

小林茂樹専務は「主に、郡内を回る営業マンが使用しています。週3日、富士吉田、都留、大月、上野原と回りますので、小さなものから大きなものまで、いろいろな商品をまとめて配達できるので、非常に使い勝手がいいですよ。最初は大きくて乗りにくいかなあなんて思いましたが、とても運転しやすく、丈夫で高速走行でもブレずに、安心して運転していられます」という。ちなみに専務も、プライベートでクレスタに乗っているという。

今後の経営展開について小林社長は「昨年10月から、専務を中心とした体制で臨んでいます。時代とともに扱い品目も変わってきます。新しいことを取り入れながら、ますます発展させてほしい。若い社員たちに期待したいですね」と語った。

〒406 東八代郡石和町今井185-2
TEL 0552-63-4466



<トヨタビスタ山梨のページ>

お家拝見

子ども達の自立を尊重した設計
日頃それぞれ忙しい家族の団らんは
夕食どきの対面式キッチンで

<トヨタホーム山梨のページ>



柏手久隆さん宅 (勝沼町)

昨年9月、甲府盆地が一望できる高台に、トヨタホーム「メレーゼ」を建てた柏手さん一家。ご主人の久隆さんと奥さんの岐子美さん、長女・沙弥香ちゃん(13)、二女・真弥ちゃん(8)、三女・寿理ちゃん(2)の、女性優勢(?)な5人家族だ。

「前の住まいが手狭になってきましたし、そろそろ、子ども達に1人1部屋をと思って新築しました」。1Fは、リビング、ダイニングキッチン、6畳の和室主寝室にバス・トイレ、2Fは子ども部屋を2部屋という間取り。「子ども部屋は1部屋を広くして、今のところ2人一緒に使っていて、将来

はアコードィオンカーテンなどで区切って使おうと考えています」

新築の話が持ち上がったのは昨年の正月。建築関係の仕事をしている柏手さんは「最初からトヨタホームに決めていた」そうだ。その理由は、「トヨタホームさんはいい材料を使っていますよ。特に断熱材はすばらしい。リビングなんかは1度暖めたら、なかなか冷めません。暖房器具もいつもの年より、1ヶ月半くらい遅く出しました」とのこと。プロがそう言うのだから間違いない。ちなみに、家の基礎工事は柏手さんが自ら行った。

「なるべく家中を広く明るく」というコンセプトで建てただけあって随所に工夫がなされている。まず、玄関のホールが吹き抜けになっていて、広々した雰囲気が漂う。天井が高いと気分も晴れ晴れする。フローリングになっている床も、なるべく明るい色の板を選んだ。次にダイニングと続きになっている和室。和室がダイニングの床より1段高くつくられているだけで、ダイニングと和室の間は仕切りがなく、オープンになっている。広々として開放的だ。また、ダイニングにいる家族と和室にいるお客様との会話が自由にできることも気に入っている点だそう。「よその家で見て、いい間取りだったから設計の段階で取り入れてもらつたんです」と岐子美さんが話す。「対面式になっているキッチンも気に入っています。やっぱり、家族の顔を見ながらご飯の仕度ができるのはいいですよ」(岐子美さん)。

共稼ぎの柏手さん夫妻。夕飯時のコミュニケーションが、家族の絆を強くしているようだ。今日も柏手家のダイニングに、明るく賑やかな笑い声が響いている。



ワンポイント情報

トヨタビスタ山梨

ボイスナビゲーション、トヨタから新登場!!
☆ボイスナビゲーション

ボイスナビゲーションは、現在地や、目的地までの“おすすめルート”など、さまざまなナビゲーション情報を、音声と画面でドライバーに伝える便利な機能。はじめての道でも、夜間でも、もう迷うことなくドライブを楽しめます。



機能①音声案内

ルート案内中、分岐方向や目的地到着など、必要な情報をさらにわかりやすく音声で案内。初めての場所でも一段と便利になりました。

機能②自動ルート探索

目的地を設定すれば、交通規則を踏まえた推奨ルートをスピーディーに自動探索。めんどうなルート設定が不要になり、便利です。

機能③交差点拡大図表示

ルート案内中分岐点の手前から分岐を終えるまでの間、交差点拡大図を表示。複雑な交差点でも一層わかりやすくなりました。

テレビ放送も楽しめる

5型ナビ対応テレビにはTVチューナーを内蔵。4チャンネルダイバーシティアンテナも付属。1DINテレビ-N5なら画面角度調整により、走行中も助手席からはテレビ画像をお楽しみいただけます。

トヨタホーム山梨

「フォーレ」・「メレーゼ」改良

高齢化社会と言われている現在、住宅業界においても、高齢者の方に安全で、快適に暮らすことができる住宅を提供しなければなりません。

そこでトヨタでは、時代のニーズに対応できるよう商品改良をすすめ、安全で快適な住まいを販売するに至りました。まず、各室の敷居の段差を無くしてつまづきを防止、階段に樹脂性ノンスリップを設定して踏み外しや転落の防止、階段以外の各室、トイレ、浴室等への手摺りを設定するなど、加齢配慮と安全性を設計しました。

二世帯住宅に関しても界床・界壁の設定により、二世帯住宅の区分登記が実現可能になったり、2階の仕様設備も多様化するなど、充実しました。

また、これまでの設計制限が拡大してお客様のご要望に応えられる自由な間取りができるようになりました。

さらに、メレーゼには、新しく外壁色やツートンカラーも加わり、外観も鮮やかになりました。

まさに『ビッグチャレンジトヨタ』にふさわしい充実のトヨタホームです。皆様の住まいづくりの夢を、ぜひトヨタホームで実現して下さい。

トヨタホーム山梨のフレッシュマングループです。
お客様の満足度100%を目指してがんばっています。



トヨタホーム山梨営業部 本社展示棟グループ
上段左から、保坂幸（甲府）、高野一臣（甲府）、矢崎聰美（甲府）
下段左から、石川玄（鶴沢）、清水崇（甲府）、戸澤一修（甲府）

ときのひと・FACE

人を結ぶ地域と結ぶ
知ってほしい心の交流スポット

<早野グループのページ>

その時何を感じ 何を考えていたのか
自分の気持ちを大事に生きていきたい
常に前向きに 後悔しない日々を送るために

「オール・ザ・パワー'95 ハイレベル提案コンテスト～
これからのトヨタホームに関する論文～」で入賞した

トヨタホーム山梨株式会社営業部 風呂川和江さん（春日居町）

「自分の気持ちを大事にしたい」

全国で8人の入賞者のうちの1人に選ばれた。「会社の一員としてがんばっているからには、会社がもっともっと大きく成長してほしい。その為には、他の社員にどうあってほしいのか…、心にもやもやしたものを、思いつくままに書きました」と話す。

論文のタイトルは『教育について』。子どもの頃は幼児教育、成長してからは学校教育、そして社会に出てからは社会教育と、人間にとつていかに教育が大事かということが、連絡と継続されている。400字詰め7枚の中では「いかに自分に責任をもって行動できるか、仕事に目標と自信と誇りをもっているか、逆境に強いか（中略）、誠意をもって気配りが出来るか…」など、社会教育の重要性を説いて、同僚へのメッセージとしている。

文章を書くのは昔から好きだったという彼女。30年来のペンフレンドとしている。

ドもいる。「サラッと生きていくのは嫌なんです。その時何を思っていたのか、何を感じていたのかを残しておきたい。自分の気持ちとか考え方を大事にして生きていきたいと思っています」



「毎日毎日を大切に生きていきたい」と語る風呂川さん

トヨタホームには平成元年に入社した。「住宅産業はこれから伸びていくと思いました。それに“家”って一生を通しての夢じゃないですか。夢のある仕事だなあとも思って」不動産関係の仕事から転職した。「入社した頃は、まだまだトヨタホームの知名度が低くて、まずお客様に知っていただくことから始め

ました。いろいろな方と会って、会社の説明をし、チャンスがあればどんどんPRしてました。苦労も多かったですよ」と懐かしそうに振り返る。「でも、社員一丸となって足を使ってがんばってきたせいか、トヨタホームの良さをだんだん分かっていただけるようになりました。あきらめないでやってきてよかった」。風呂川さんの営業活動は、女性の目で見た木目細かなアドバイスに定評がある。

働く女性へのメッセージ

「女性が仕事を長い間続けるということは大事なことです。会社側も理解を示して、女性にもそれなりのポジションを与えることも必要ではないでしょうか。女性側も与えられたチャンスにのって、期待に応えなくてはいけませんし。何でも前向きに取り組むことが大切ですね。与えられた仕事だけでなく、プラス1、プラス2がんばるー。仕事を大事にすることが長く働くコツ」と微笑んだ。

おしゃれ

セイビドー本店



使う人の個性に合わせた豊富な品揃え

営業時間 10:00~19:30

定休日 年中無休

所在地 甲府市丸の内1-15-8

TEL 0552-37-6800

※この他、エクラン、岡島、田富、石和、河口湖店がある。



たべる 活・静 すし長



営業時間 は予約に応じて
17:00~22:00

定休日 木曜日

(月1回水・木曜日と連休)

所在地 甲府市国母7-4-27

TEL 0552-28-0944



信頼と実績に基づいたメガネの老舗 ただ今“踏んでも壊れないメガネ”人気上昇中

今年で創業101年目というメガネの老舗。その信頼と実績は揺るぎない。「目の状態をきちんと把握して、正確に調整する。当り前のように聞こえますけど、けっこう技術を必要とするものですよ」と奥石社長は話す。セイビドーの調整には定評がある。

「最近は皆さん、人と同じものではなく、ファッショニ性が高い個性的なものを作られますね。今はふらなしのメガネが流行っています。顔のイメージが壊れませんからね」。中でもTVコマーシャルでお馴染みの“セイビドーの踏んでも壊れない驚異の百年メガネ”がおすすめ。特殊チタンを使ったフレーム重量わずか3gのメガネで、キャッチコピー通り、驚異の弾力性を持った力学設計をされているので、落としても踏んでも壊れることがない。デザインはいたってシンプルなので、どんな顔にも快適にフィットする。特殊チタンなので、肌アレルギーの心配もない。フレームの色も16色と豊富だ。久米宏キャスターも愛用しているので、一度ご覧あれ。

活きのいい魚を 粋な雰囲気で味わう 「すし長」で旬の味をお楽しみください

のれんをくぐると「いらっしゃい」の声が、明るく活気にあふれた店内に響く。ご主人は店を持って15年。現在の場所に店を構えてから8年になる。「常連さんが多いかな。おなじみの方が、よく足を運んでくれますよ」とご主人。それもそのはず、旬の魚を、生で、煮て、焼いてと、いろいろな料理で楽しませてくれるのだから。「春はやはり鯛などの白身の魚がおいしいですね。貝だと、鳥貝やみる貝、青柳。ホタルイカももちろん旬ですし、とこ節も刺身でよし、煮てもよしですよ」。「いろいろおいしいものを、少しずつ何種類も召し上がってほしい」をモットーとするご主人、カウンターには常時、産地直送のネタが豊富に並んでいる。何回か通っていると好みを覚えてくれて、その日のおすすめを出してくれる。さりげない心くばりがうれしい。もちろん初めてのお客さんでも大丈夫。家庭的な雰囲気なので、安心して寿司を味わえる。カウンターが11席、小上がりに3テーブル、座敷は3部屋。予約は40人までOK。

甲州の野辺にて ④

先人の心に還る(2)

「櫛形町沢登地区の切子」

志摩 阿木夫 民俗学研究者
しま あきお

遠いむかし先人たちが、暮らしの中で大切に守っていた生活習慣とか、民俗行事などが年を経るに従って、減び去っていったり、例え多少でも伝承されていても、その内容が本質を失ってしまったりしているのは、日本民族のかけがえのない文化を守り続けようとする人びとにとって、たまらなく切ないことである。

しかし、現在のように日に日に新しい文化が誕生すると、こうした保守的な考え方とはとかく敵対されて、ついには守り続けようとする意欲さえ剥ぎ取られていって、結局は郷愁という成語の中に押し込まれ、やがて息絶えるしか道はないことになる。

ただここにひとつだけ力強いことばがあって、それが唯一の支えとなっていることも忘れてはならない。

つまり「若者を熱狂させる文化は、一瞬流行の波に乗るが長くは続かない。そのため時代の間に押しやられた伝統文化は、必ず帰ってくる日がある。

なぜならば伝統を愛さない国民は、どこにも存在しないからである」というのである。このことばはいうまでもなく、「先人の心に還る」といった伝統への復帰を促す指標である。

ここに紹介する「沢登の切子」もそのひとつである。

「切子」とは別名「おずかし」と呼ばれる切り紙工で、その発生の歴史は寛文4年(1664)まで遡るものだが、はじめは地域にある六角堂(聖徳太子と如意輪觀世音菩薩を祀る)から護符(お守り)として、地域の家々に配られたものであった。

およそ330年という歴史の中で、生き続

けてきた伝統の重味を、現在でも地域の人びとは大切に守り続けて。毎年10月13日に行われる六角堂の祭典には、保存会の人びとの手で刻みあげた作品を六角堂に奉納し、いまではその出来映えの優劣を競ったのち、お祓いをして、昔と同じように地域の家々に護符として配っている。

「切子」の製作技法は300余年の昔と変わっていないが、仕上がりの優劣を競うこと、



完成した切子作品(平成7年のもの)

「切子」に刻まれる絵柄が時の流れを反映して、多少の変化を示している。それにして「切子」という伝承手芸に立ち向かう人びとの心は、あくまでも先人の心を受け継いでいて、貴重な文化遺産の継承であるといえる。

ちなみに絵柄の変化といえば、はじめは護符として発生したものであったから、当然神仏を対象としていた。それが次第に供

樂性が伴って、武者絵とか役者絵とかになったり、または風景とか静物となり、最近ではマンガのキャラクターまで登場するようになった。それでも本格派の作品には伝統をふんだんに用いたものがまだ多く残されている。

ところで切り紙といえば、今ではどこでも行われている特にめずらしいものではないが、「沢登の切子」の場合はその精緻さが高い評価を得ていることと、絵柄の下地には必ず、麻の葉模様を連続して刻み込まれなくてはならない、という伝統的な技法が約束されているので、その製作に思いもかけない長い時間がかかるということと、これを素人の手で作りあげるという点に大きな意味がある。

それぞれの作者はすべて生業を別に持っているので、一つの作品を仕上げるのに、一日3時間を「切子」の作業に当ても半年はかかるというから、その忍耐と努力は計り知れないものがある。それでも作り続けようとするのは、やはり、先人の残してくれた伝統の文化を、現代に生きる者の怠慢で失ってしまったなら、次の世代の者に申し訳ない。という責任感と、もうひとつには、せっかく先人が伝え残してくれた民俗文化を、自分たちが受け継ぐことができたという、誇りと感動がそこにあるからといえよう。

平成7年12月25日、この「切子」の技法は地域の長年の企画を果たして「県指定无形民俗文化財」に認められた。保存会ではこれを契機にいよいよ伝承に力を入れて、「先人の心に還る」運動をさらに展開しよう決意を確かめている。

某月某日

新入、新人、新卒、と“新”が似合う季節

改めて空を仰いで暮らしてみると、

新しい生活が眠っていることに気づく

カタくなり過ぎず、かといって若くなり過ぎず、遊び心をさりげなく…

・不真面目でなく「非まじめ」のすすめ

・待ち焦がれていたテーマパーク



×月×日

会社での様々な場面において、上司からよく言われる「きちんと○○しなさい」という言葉。ところが、その命令を素直に聞いて、管理職たちが満足するだろう社員の姿が出来上がったならば、どんな“つけ”が回ってくるのだろうか…。ある意味でそれは、強迫的な人格である。他人から真面目でない、きっちりしてない、と評価されはしないかこだわっているのである。

しかし、そんな真面目社員を「優良社員」と錯覚している管理職は意外と多い。それは、彼ら自身も真面目で、それなるゆえに出世してきた過去の人生があるからだ。特に人から言われたことをきちんとやることを立派な行為と思い込んでいる。そして、与えられた仕事はきっちとこなせるから、それを他人に要求するのである。完全主義であればあるほど、その傾向はつよく、感情が閉塞した状態になる。

「彼は真面目だ」と欧米で言われたなら、それにはいささか軽蔑の意味がこもっている。それは、心にゆとりがなく、柔軟性に乏しいからである。ユーモア

や冗談が少なく、それを理解することができないからでもある。ユーモアは温かく周囲の人を包み、笑いを引き出す力があり、リーダーシップを取る者にとって大切な資質とされている。

社員を真面目で几帳面な人格から解放して、自由な心の持ち主に変えるには、管理職自身がそれから解放する努力を始めることが大切。ばけたことを楽しむことが出来たなら、社員を許せるようになる。そこに、柔軟であり体力のある機能的な仕事が、そして会社が生まれる。それが「非まじめ」のすすめだ。

×月×日

東のディズニーランド、西のハウステンボス、バルケエスパニヤ、etc…。数多くのテーマパークが出来、バブル経済崩壊後でも連日、大勢の集客力を誇っている。レジャー機会の提供、地域の開発促進・イメージアップ、交流促進など、社会・経済に与える効果も大きく、明るい話題としてプラスの影響を与えていることが見て取れる。

そんな中、前々から楽しみにしてい

た「手塚治虫テーマパーク」が、那須高原にほど近い宇都宮市周辺に出来るという新聞記事。鉄腕アトム、ジャングル大帝、ブラックジャック、リボンの騎士、火の鳥、ブッタ、三つ目が通る、アドルフに告ぐ、陽だまりの樹、等など。

ソフト（キャラクター）の数では明らかにウォルト・ディズニーを上回る。

作品に登場するキャラクターがアトラクションや乗り物に登場し、日本が世界に誇ることのできる「漫画の世界」を演出する。その中には、手塚治虫が作品の中に込めていた社会風刺—<自然保護、生命と死、偏見と平等、夢…>—といったメッセージを、訪れた人が肌で感じ取れるように配慮するという。

受験勉強もせずに漫画で育った私にとって「怪我をして保健室へ行ったら、ブラックジャックが手当してくれる」そんな光景を想像していたら、夜も眠れないほどにぞくぞくする。アトムの生まれた2003年が待ち遠しい限り。それにもまして山梨にも、富士の麓に“ウルトラの国”、八ヶ岳には“セーラームーンランド”なんていうのは如何かな。

[文：新海 級]